

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2023年3月期第3四半期決算短信、プレスリリースなど、当社の近況をご報告させていただきます。
株主の皆様には今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

① 2023年3月期第3四半期 業績ご報告

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済の景気は、緩やかに持ち直しております。個人消費は、外食・宿泊・娯楽などの対面型サービスを中心に回復しております。消費者物価上昇率（生鮮食品を除く総合）は、エネルギー価格の高止まりが続く中、食料（生鮮食品を除く）の伸びが高まったことに加え、携帯電話通信料の引き下げの影響が縮小したなどから、2022年11月には前年比3.7%と約40年ぶりの高い伸びとなりました。政府は2022年7月の月例経済報告で、景気の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」から「緩やかに持ち直している」へ上方修正しております。

当社グループの属する業界も、異業種を含む大手企業の新規参入など更なる競合激化は続いており、当社グループを取り巻く環境は依然として厳しいものとなっております。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びウクライナ情勢による事業への影響については、予断を許さない状況であるため、今後も注視してまいります。

このような経済状況のもとで、当社グループは、引き続き積極的に事業を展開しております。当第3四半期連結累計期間においては、かねてより参入していたジェネリック医薬品の分野で、2022年2月に日本国内における製造販売承認を取得した高脂血症用剤（一般名：オメガ-3脂肪酸エチル）が2022年6月に薬価収載され販売を開始いたしました。

また、当社グループの健康理念のもと、長年蓄積してきた原料調達ノウハウを駆使し、開発した当社独自の機能性素材であるローズヒップエキスや、銀粒仁丹に用いたコーティング技術を発展・応用させたシームレスカプセル製造技術を駆使したフレーバーカプセルの販売が堅調に推移しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高8,361百万円（前年同四半期比20.3%増）、営業利益549百万円（前年同四半期比578.2%増）、経常利益587百万円（前年同四半期比455.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益441百万円（前年同四半期比226.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① ヘルスケア事業

当セグメントにおきましては前述のとおり、高脂血症用剤（一般名：オメガ-3脂肪酸エチル）の販売を開始しました。国内ではジェネリック医薬品の供給不安が続く中、安定供給に努めてまいります。また、「ビフィーナ®」の販売が堅調に推移し、それに加えて当社独自の機能性素材であるローズヒップエキスでは、採用されたアイテムが増えたこともあり、売上高は、6,313百万円（前年同四半期比17.9%増）となりました。

損益面では、売上高が堅調に推移するなか、効率的なプロモーション活動等に努めたこともあり、セグメント利益は、144百万円（前年同四半期比10.6%増）となりました。

② カプセル受託事業

当セグメントにおきましては、フレーバーカプセルの販売が前年同四半期と比べ増収となりました。

また、産業用途でのカプセル開発にも長年取り組んできた結果として、外部との共同研究により、当社独自のシームレスカプセル技術を用いた化粧品カプセルの開発に成功しました。

今後も当社独自のシームレスカプセル技術を日本のみならず国外においても展開していくことにより、社会課題解決への取り組みをグローバルニーズへと広げることができると考えています。

この結果、売上高は、2,045百万円（前年同四半期比28.5%増）となりました。

損益面では、効率的な生産稼働と合理的な研究開発投資に努めたこともあり、セグメント利益は、402百万円（前年同四半期はセグメント損失51百万円）となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、売上高は、2百万円（前年同四半期比36.2%増）、セグメント利益は、2百万円（前年同四半期比86.4%増）となりました。

（百万円未満切捨て）

2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	8,361	20.3	549	578.2	587	455.2	441	226.9
2022年3月期第3四半期	6,950	△2.8	81	△68.2	105	△61.2	135	△34.2

（注）包括利益 2023年3月期第3四半期 757百万円（485.3%） 2022年3月期第3四半期 129百万円（△69.8%）
（2023年2月9日公表）

2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益 円銭
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
2023年3月期予想	10,000	4.6	280	△6.5	320	△6.1	236	△16.8	57.93
2022年3月期実績	9,563	1.4	299	33.7	340	34.7	283	37.4	69.58

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2月11日は仁丹の日

② 森下仁丹は創業130周年を迎えました

2月11日で、森下仁丹は創業130周年を迎えました。1893年に業祖 森下博が大阪の地で薬種商「森下南陽堂」を興して以来、130年という永きにわたり、当社を支えてくださったすべての皆さまへ、心より厚く御礼申し上げます。

当社の原点ともいえる銀粒の「仁丹」は、変わりゆくニーズを追求し、「グリーン仁丹」「梅仁丹」、液体タイプへと展開を続け続けたことで、現在のコア技術である「シームレスカプセル」の誕生をもたらしました。また、生薬研究のノウハウは機能性素材の研究開発へと活かされ、人々のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上に貢献しています。

さらなる事業成長に向けては、当社の強みである「独自性」を存分に活かす考えです。シームレスカプセル技術を用いた「ビフィーナ® シリーズ」をはじめとする食品や医薬品などの可食分野に留まらず化粧品や産業用品といった非可食分野への応用で、サプライヤーとしての立場からも技術革新を目指します。

当社の志を照らすフィロソフィーのような存在になりつつある「仁丹」の《仁》には「思いやり」、《丹》には「真心」の意があります。周年の節目で、社名にも冠したこの二文字が持つ意味を再度胸に刻み、次の時代へと嚆(たすき)を繋ぐ決意とともに、ステークホルダーの皆さまの期待に一層応えることのできるよう、社員一丸となって歩みを進めてまいります。

代表取締役社長

森下 雄司

130周年 Anniversary マークについて

「仁丹」発売当初から親しまれ、当社のシンボルマークの一つでもある「大礼服マーク」。2023年2月から1年間限定で少しだけ特別な装いとなりました。



通常の大礼服マークに130th Anniversaryの文字を掛け合わせた特別版です。130thの下にある矢印は、実直に歩みを進める当社が未来へ向かう姿を表しています。

永きにわたり、当社を支えてくださった皆様への感謝の気持ち伝えるとともに、これからも歩みを止めることなく前進していく決意の証でもあります。

130周年メモリアルイヤー企画のご紹介

① 少彦名神社へ巨大絵馬を奉納

創業日である2月11日に医薬・健康の神様を祀る大阪の少彦名神社へ、幅約1.8メートル・高さ約1.1メートルの巨大絵馬を奉納いたしました。奉納した絵馬は、当社製品をご愛用頂いているお客様をはじめ、当社を支えてくださるお取引先様、地域の皆様、従業員など当社に関わる全ての方々の健康を祈願しています。



② 「仁丹」ブランドサイトリニューアル

130周年を機に、より一層、当社の看板商品である銀の粒でお馴染みの「仁丹」を皆様を知っていただけるようブランドサイトをリニューアルしました。

今回のリニューアルでは、当社が推奨する「仁丹」の利用シーンを追加し、用途をご紹介します。「仁丹」を知らない方でも気軽に手にとってご使用いただけるような構成にしました。



URL <https://www.gintsubu.jintan.jp/>



③ 創業130周年記念キャンペーン

日頃の感謝を込めまして、2月1日(水)～3月22日(水)の期間にプレゼント企画を実施しています。創業130周年、また、通信販売を始めて30年、お客様からの変わらぬご愛顧に感謝し、特賞、1等賞 合計で総額130万円分の豪華賞品をお贈りするキャンペーンです。

URL <https://www.181109.com/campaign-camp2302a.html>

